

小谷村における大糸線の現状について

長野県北安曇郡小谷村観光地域振興課

小谷村大糸線振興会議について

地域住民が一体となって大糸線の利用向上及び地域経済の活性化に寄与することを目的として、令和4年6月29日に設立。構成委員は、地区住民代表、教育委員会、観光連盟、南小谷駅、小谷村議会、小谷村商工会。



【事業計画】

1. JR 西日本共催 住民意見懇談会

令和4年8月30日(火) 参加者66名

大糸線の現状について JR 西日本から説明、その後、意見交換会を実施

2. 各関係者との懇談（随時開催）

学校教育、子育て世代、交通弱者、観光面など様々な関係者から意見を聴取し、今後の大糸線利用促進アイデアを企画する。

3. 利用促進案募集及び自主事業支援

利用促進に向けた村民からの取組提案に対し、二次交通支援や運営企画支援を行う。また、自ら企画する事業を募集し支援を行う。

※事業計画段階で JR との協議を行う

4. 関係団体との連携

大糸線利用促進輸送強化期成同盟会、大糸線活性化協議会、大糸線ゆう浪漫委員会等団体が実施する事業と連携し、イベント参加や支援を後押しする。

5. 小谷村観光連盟を主体とした観光誘客促進

大糸線利用旅行商品モニターツアーの造成、大糸線利用エージェント説明会等

6. 行政の業務上での大糸線利用を促進

お買い物ツアーや子育て世代おさんぽツアーなど、普段の取組の中に大糸線利用を組み込む。

令和4年8月30日 JR西日本共催住民意見交換会の意見（抜粋）

- ・ Q 輸送密度として黒字になる数字は。
A 収支状況は、収入が2,000万円、費用が5億9,000万円。仮に、ご利用が30倍になれば追いつくが、支出も増えるため損益分岐点は一概に言えない。
- ・ Q リゾートビューふるさとを糸魚川間まで走らせることはできないのか。
A 他社の車両乗り入れというのはハードルが高い。それぞれ別の仕様（保安基準）で進化させている関係上、国鉄時代と比較して難しくなっている。
- ・ Q サイクルトレインを運行しているが、常時5台分常設することは可能か。
A 人手やコストがかかるため、現状の大糸線では常設は難しい。
- ・ Q 交換設備が廃止されており、列車の増発ができない状態。
途中まで設備が残っているので平岩駅に設備を設置できないか。
A 交換設備は降雪時の対応、安全上の労力コストが高くなるので難しい。

大糸線利用促進アイデア（抜粋）

1. 大糸線利用者への食事代補助

飲食という目的を利用者に与えることで、大糸線の利用者数を増加させる。
例：飲食代の1/2補助、上限3万円



2. 列車内でのガチャガチャ販売

各駅をモチーフとしたアクリルスタンドを景品とし、駅を繋げることで収集欲を喚起させる。背景・駅舎・電車・台座をワンセットにしてカプセルに封入。



3. 車窓から見える景観の整備

雑木が繁茂し、車窓から見える景観が阻害されているため、伐採して景観向上を目指す。長野県森林税活用すれば、事業費の90%補助が受けられる。

